



訪問看護における働き方改革

ICT活用による直行・直帰制の実現

株式会社らふえる
らふえる訪問看護ステーション

施設概要

1

株式会社らふえる らふえる訪問看護ステーション

施設理念

Laugh & Wellness
Laugh & Wellbeing
Laugh & Well



所在地 茨城県土浦市

職員数 15名

看護職員数 10名(常勤5名・非常勤5名)

※2022年11月1日現在

小規模事務所では経営の安定が最優先課題

職場環境を整備し雇用の促進と定着を図る

+

顧客確保のためのサービスの質の担保

が重要

▶ 設立当初から直行・直帰制を実現し、設立5年後には常勤換算約**10**名を超える

▶ 以下の課題にも直面

- 職員間のコミュニケーション希薄化
- 変更が多い訪問予定の伝達困難
- 報告、連絡、相談の混乱
- 職員の勤務状況が見えない

▶ 課題解決のため、**ICT***の導入が必須

* ICT : Information and Communication Technology | 情報通信技術

目的

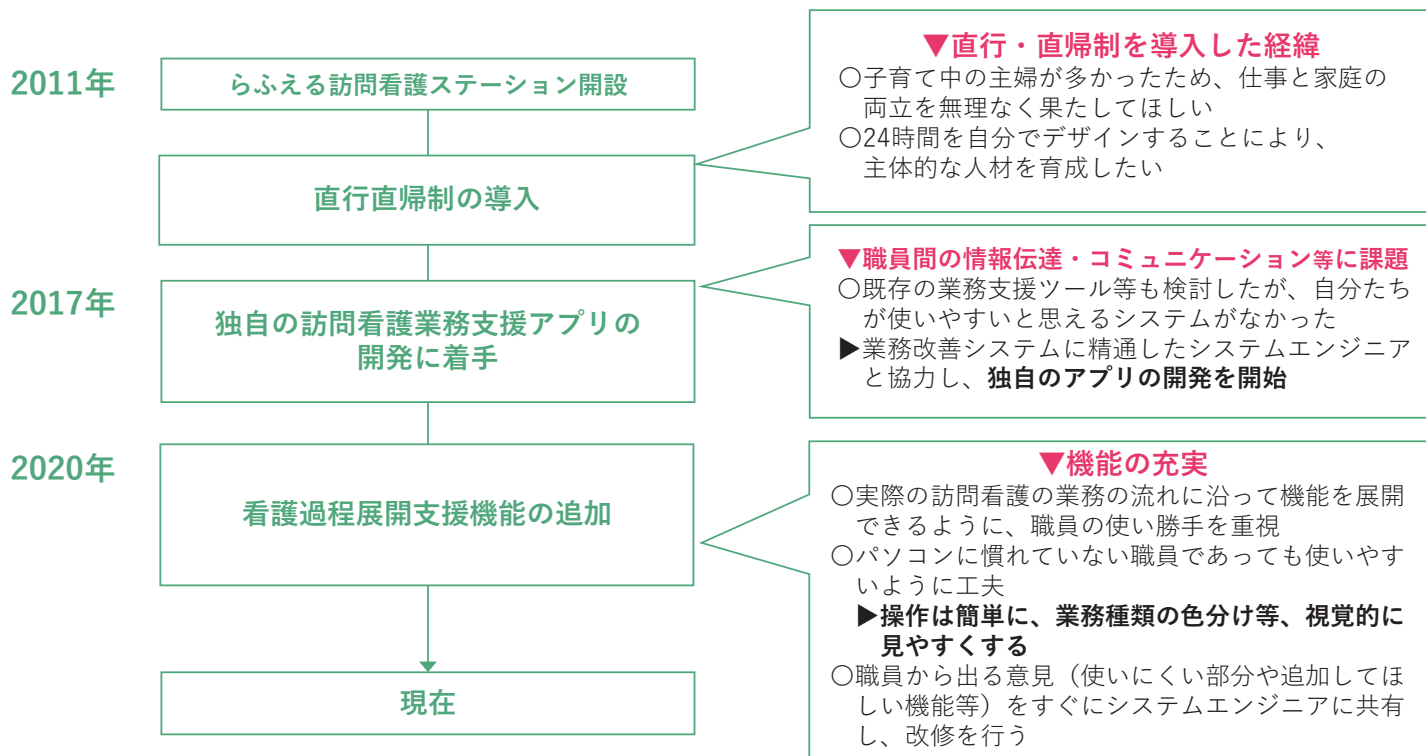
職員がライフワークバランスを維持しながら互いに連携して質の高い看護実施ができる訪問看護ステーションを実現する

目標

直行・直帰制で入社しなくても訪問看護に必要な以下の業務を遂行できる

- ① 情報共有、指示伝達、意見交換が円滑に行われ、日々のケアの水準が保たれる
- ② 職員が互いの動向や作業状況を把握し、急変等の予定外の対応も迅速にできる
- ③ 報告書作成などのデスクワークを効率的に行い、訪問稼働率を上げる
- ④ 管理者が職員の職務状況を把握し、労働基準法に則った勤怠管理ができる
- ⑤ 直行・直帰制により雇用が促進され、職場ストレスによる離職者がいない
- ⑥ 効率化による職場環境改善が看護師の能力向上となり質の高い看護実践につながる

1 看護師の直行直帰制・支援アプリの開発



1 所内のICT環境の整備

○職員全員に業務用スマートフォン、タブレットを配布

○セキュリティ対策の強化

- ・セキュリティ対策を専門業者に委託
- ・所内インターネット回線にファイアウォール*を設置
- ・所外業務用機器のセキュリティソフトを管理者が一括管理

*内部のネットワークに外部から侵入してくる不正アクセスや、内部ネットワークから外部への未許可通信から守るための「防火壁」

2 情報共有、コミュニケーションの円滑化

○チームナーシング制の導入

- ・直行・直帰制による孤立化を防止することを目的とし、3～4人でチームを構成し、1チーム30名前後の利用者を担当
- ・ケア内容の検討、地域連携、職員間の業務調整などをチームのチーフがリーダーシップをとりながら協力できる体制とした

○SNSサービスの利用

- ・チーム、職場全体の情報共有、コミュニケーションの手段として、SNSサービスを目的別に活用
- ・ステーション内の情報共有だけでなく、主治医、ケアマネジャー、家族等も参加できるツールを活用し、地域連携を実現
- ・ハイブリット方式で全体ミーティング（月1回）の他に適宜チームミーティングを実施。目的意識をもって開催している

3 独自業務支援アプリの開発

▼設計コンセプト

- ・職員が日々の業務の流れの中で、モバイル機器を用いて使用できる
- ・クラウド運用により、いつでも、だれでも、どこでも、簡単にモバイル操作ができる
- ・利用者及び職員の**基本情報が一括管理**できる

業務支援アプリの機能

○利用者の基本情報管理

○勤怠管理等の機能

勤務実働時間や移動距離計算などを自動計算

○データ保管機能

訪問看護運営及び労務管理上必要な書類のペーパーレス化

3 独自業務支援アプリの開発

業務支援アプリの機能

○訪問スケジュール管理

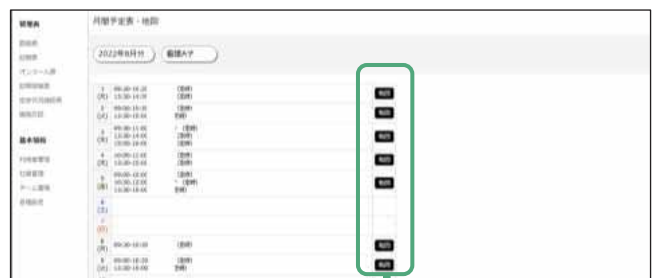
- ・1ヶ月分の訪問スケジュール自動作成機能
 - ▶利用者側の条件（契約日時、居住地域、介護度、ケアの難易度等）
 - ▶看護師側の条件（勤務日、経験、担当不可要件等）
 - ▶などをあらかじめ入力し、**マッチング機能で最適化**

偏りのない訪問スケジュールの作成が可能
1か月先のシフトが作成できるため、先を見越した労務管理が可能

- ・職員の予定を見える可
 - ▶訪問以外の作業も含め、職員の動向を色別に見える可

予定外の事態にも迅速な対応が可能

▼職員のホーム画面を開くと日々のスケジュールが表示され、「地図」のボタンから経路の確認ができる



※イメージ図

3 独自業務支援アプリの開発

▼設計コンセプト

・看護過程の各段階における情報やアセスメントを看護師の思考に沿って入力できるように設計

業務支援アプリの機能 | 看護過程展開ツール

○看護過程アシスト機能

アセスメントに必要な情報を網羅・系統的に入力

▶看護診断に対する看護計画を実践過程の段階に沿って入力すると、その後の展開にリンクされる

○アウトプット自動化による業務の効率化

入力されたデータのリンクにより各種書類・帳簿類を自動作成する機能

【メリット】

- ・入力データに一貫性の欠如や矛盾があると、報告書等書類にも反映されるので修正箇所がすぐ見つけことができ、管理者やチーフからの指導も行いやすい
- ・「日々の訪問看護記録」には「看護・リハビリ過程展開」から観察項目や介入計画が反映され、誰が訪問しても観察やケアの漏れを回避できる。
- ・観察、実施したら✓のみで良いので、異常がない場合は、訪問中に記録が完成
- ・急な入院、入所があっても、迅速に訪問看護サマリーの作成ができる

○その他のサポート機能

処方リスト、手順書、緊急電話記録等の入力箇所設定により情報共有をサポート

3 独自業務支援アプリの開発

業務支援アプリの機能 | アプリ画面

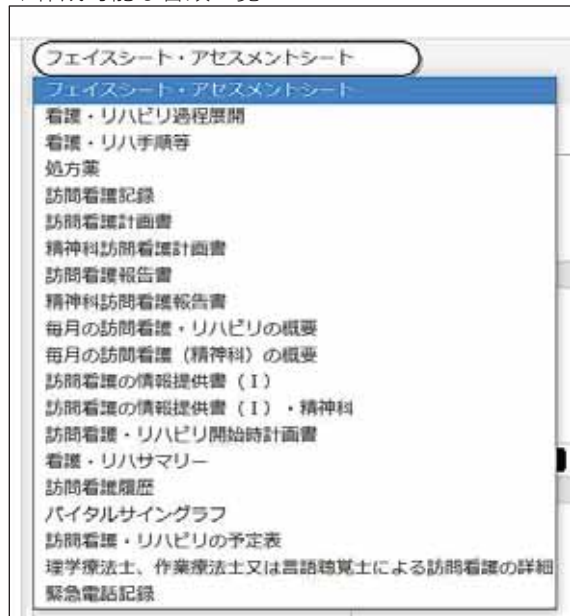
▼スケジュールのページ



▼フィジカルアセスメントのページ



▼作成可能な書類一覧



1 | 業務量と業務時間の削減・短縮、費用の削減

○一つの業務に要する時間の短縮

訪問スケジュール作成： **数日 ▶ 2~3時間/月**

報告書等の作成／1書類： **平均60分程度 ▶ 40分程度**

80名の利用者の訪問看護計画書と報告書を作成した場合
 $(60 - 40) \text{分} \times 2 \text{種類} \times 80 \text{人分} \times 12 \text{ヶ月} = \text{年間} \mathbf{640} \text{時間の削減}$

○時間外業務時間の削減：職員の職務状況を把握した勤怠管理

月平均の時間外業務時間： **157.8時間(2017年度) ▶ 55.7時間(2021年度)**

常勤換算平均： **10.1人(2017年度) ▶ 9.4人(2021年度)**

年間の時間外業務手当総支払額： **2,699,428円(2017年度) ▶ 827,636円(2021年度)**

年間1,871,792円の削減

2 | 看護師の身体的・精神的負担の軽減

- ワーク・ライフ・バランスの実現により職員はゆとりをもって仕事に取り組めるようになった
- 看護師の能力向上、質の高い看護実践につながる研修参加意欲も増加

▶ 時間内制約による離職者が減った

3 | コロナ禍における円滑な直行・直帰

- 感染拡大以前から実施していたため、コロナ拡大時も円滑に実施できた

▶ 職員の感染（濃厚接触を含め）は **0人**

4 | 指示系統の変化

- 上司から部下へという単一方向から
フラットで誰でも情報を得て意見を述べることができる関係性へ

職員個々の自立性・自主性を高め

▶ **プロフェッショナルとしての自信に繋がる**

5 | 職員アンケートより抜粋

○今までよりさらに患者・利用者の満足度が向上した



直行・直帰制による時間のゆとりや記録類作成の効率化により、**看護過程を検討する時間が増え、またそれをチームで共有することにより、利用者の快適さと安楽を生み出すことに貢献した。**また、利用者個々に異なる願いは、多職種連携のためのコミュニケーションツールを用いて所内及び地域との緊密で迅速な連携を図ることで解決につながった。

○看護職の人員配置が最適化できた



スケジュール自動作成では、複雑な訪問条件をマッチング機能で最適化するため、**偏りのない訪問スケジュールが実現した。**

○チーム連携が向上した



ICTの導入により、職員個々の情報量が増え、事例検討会などで、自分が担当していない他チームの利用者に関する議論にすぐに参加できている。



アプリ開発にかかった経費は長期的に還元できると考えるが、それ以上に、**職員の自主性、自立心が大きく向上したこと、効率化して生み出された時間を地域連携等のために費やすことが出来たこと**に大きな成果を実感。

今後の展望

1 | ICT導入によるメリットを伝える

管理者の時間的余裕の創出によって日々の業務管理が容易になる

▶ 事業所内のルール作りに専念 / **地域の訪問看護全体の向上に向けた活動** etc… も可能になる

2 | 開発した訪問看護業務管理アプリの一般実装

小規模事業者同士がシステムをシェアして運営継続できるような仕組み作り

導入のポイント

1 | 直行直帰を導入する目的を明確にする

勤務時間の短縮につなげる / 訪問件数を増やし収益につなげる / ケアの質向上につなげる etc…

2 | ICTシステムの導入

コミュニケーションツールを積極的に導入する

3 | ICTシステムの管理者とのコミュニケーション

ICT化できる業務・できない業務を**看護師**が把握し、ICTツールを最大限生かせるようなシステムを**看護師から**提案する

▶ **訪問看護業務にコミットしたシステムの構築が円滑に**